

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 若狭町社会福祉協議会	代表者	会長 山崎 和男	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・僻地診療、往診医と細かな変化も情報共有することを心掛け、連携の充実を図っている。 ・自宅での暮らしを継続するために必要な「自分で出来ている事」を維持できるように、その人らしさを大切にしながら見守り、必要なお手伝いのみ行う事を心掛けている。
事業所名	小規模多機能ホームみさき	管理者	渡辺 純子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	1人	人	人	7人	人	11人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの資質向上を目的に、定期的に内部研修および外部の専門職を招いての研修会を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・初心にかえりオムツの当て方や職員から希望のあった研修や五湖の郷の研修に参加した。 ・ほぼ毎月取り組むことができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修をほぼ毎月取り組むことができたとの事で、習得した知識や技術を現場で有意義に活かして貰いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の資質向上を目的とした研修を継続すると共に介護教室を開催しご家族が得たい介護技術方法や情報を伝達する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の気がかりな方へ定期的に声をかけ、事業所のイベント等に参加していただき交流を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事を行う際に地域の気がかりな方に声をかけボランティアとして参加していただいた。 ・おでかけ行事の際に気がかりな方にチラシを配り参加を呼びかけた。 ・自分で美容院に行けない地域のお年寄りに、みさきへ散髪業者が来られる日を伝え、みさきでの散髪利用後に他利用者で交流していただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の玄関の鍵について、地域に開放しないといけないが障害者施設の事件の問題もありセキュリティの強化も必要なため難しい点である。 ・他県からのお客さんも多く気を付けるべきではないか。 ・散髪を利用したい方も三方の方まで家族に送り迎えを頼むのは遠慮だと思うので近場で散髪ができると有難いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に参加していただける行事を定期的に企画し、ご利用者と地域の方が交流できる居心地の良い場を目指す
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の「福祉相談窓口」としての役割を強化する ・地域でのイベントや行事に出向き地域の方との交流の機会を積極的に持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・7/21～8/18までの約1か月間神子の浜そうじを行いながら地域の方の介護に関する相談等も行った。 ・地域のイベントや行事と日程が合わなかったり、天候で行事が中止になることもあり、なかなか参加出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・干物作りを通して、地域の方がボランティアとして参加されたり、ご利用されている方も久しぶりに地域の方に会えたとのことなのでネットワーク作りが出来て良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流の機会を増やし「福祉相談」が気軽に出来るような関係性の向上を目指す
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの中で昔は行えていたが今はできない事を地域の方の協力も得ながら活動として取り入れ、生きがいへと繋げるお手伝いを行う ・個々のニーズに応じた柔軟なサービス提供を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの行事として干物作りを地域の方の協力も得て行った。何年も干物作りから遠ざかっていた方達ばかりだが、手は覚えておられ生き活きとされていた。 ・わらを分けていただき利用者にしめ縄を作っていただいた。 ・岬小の体育館を借りて、お元気でおられた頃に一生懸命したゲートボールに似たゲームやリハビリを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔はゲートボールがどこでも盛んだったが、今は集落の人でも試合には出るものの練習はしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各集落に定期的に散歩をかねて出かけ、集落の人との交流・気分転換を図る
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・気がかりな方を地域で支えるために運営推進会議で情報交換を行い、ご近所の方を含めての連携をとる 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で名前が上がった気がかりな方について、集落へ送迎や訪問時に声かけや様子の確認を行った。 ・地域から気がかりな方についての相談を受け、ご家族に介護認定についての相談対応を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気がかりな人が居ても、昔その人達がしっかりしていた頃は、認知症になったら施設に入るケースが多かった為、施設は、認知症の人が行く所という思い込みがある。 ・西浦地域の高齢化率は高くどんどん進んでいる。介護が必要になれば施設を利用する事になるが料金について知りたい。 ・介護が必要になってからの利用ではなく冬場はグループでみさきに集まって何かするのも1つの方法かもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の場で、地域の気がかりな方や気がかりな事柄について話し合う時間を設け情報の共有・対策を検討する
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の初期対応としての避難受け入れ先として機能するために必要な防災対策について検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の利用者および初期対応としての避難受け入れ先として必要物品や利用者および避難される方の対応について、事業所内で話し合いを行った。 ・地域の防災訓練を見学参加させていただく予定だったが、台風のため中止となった。訓練が本番となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に事業所は頼りになると期待している。 ・この前の台風での風水害の時には、スタッフが利用者宅を訪問してくれた。しかし、実際2次災害の危険もあるため心配である。待機していた方が安全な場合もある。 ・前回の災害時に停電が続いたが近所同士が協力し助けあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の受け入れ先として機能するため、地域での避難訓練に参加し防災対策を地域の方々と検討する